

**有機栽培へのこだわりと交流**

おばさんパワーにはいつも圧倒されるばかりであるが、若い人たちの素晴らしいパワーを実感することも少なくない。その一つ。

筆者は西東京市に住むが、玉川上水をはさんで向こう側の武蔵野市に清水農園がある。わが家で消費する野菜の大半はここから届けられる。畑は20アールほどの規模経営で典型的な都市農家であるが、年間約40種類ほどの野菜を多品種少量生産で作っている。

この特徴は有機栽培へのこだわりであり、会員への販売を基本とする。消費者とは日常的に交流しており、いろいろの人たちが頻繁に出入りする。

すぐ近くに保育園、幼稚園、そして小学校があることもあって、子どもたちがトウモロコシをもらいだり、大根を抜いたり農業体験はしょっちゅう。子どもたちは行き帰りに清水さんの姿を見かけると「こんにちは」と言っっては寄っ

**自主保育で、森の保育園**

園主の清水茂さんは、いつ会っても忙しそうだが、「最近はお本当に忙しいんですよ」とニコニコしながら語る。話を聞いてみると子どもたち中心の農業体験に加え、

集まり、公園を利用して保育をしているもので、週2日、昼前後、「自然の中で思いきり遊びたい、遊ばせたい」を実践している。小金井公園や野川公園等の緑豊かな空間やプレイパーク等を利用しての、まさに「森の保育園」である。そ

時流を読む  
疾走する  
若いお母さんたち  
農的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

お母さんたちが収穫した大根を使っ

た。ゆゆうぐは「未就園の子

どもたちと

**疾走する 若いお母さんたち**

農的デザイン研究所代表 蔦谷 栄一

うした活動のいっかんとして有機栽培で安心して子どもを遊ばせ、食べさせることができる清水農園にも足を運んでくるわけだ。

**新兵器を使いこなす**

小金井公園をはじめとするいく

つかの公園や清水農園は、概ね10キロメートル圏内にあるが、小さな子どもを連れての移動は楽ではない。また相互に頻繁なやりとりが必要ともされるが、これを可能にしているのが電動ママチャリとアイフォンだ。アイフォンで仲間同士が連絡を取り合い、いざ集合となれば電動ママチャリで疾走する。まさに若いお母さんならではの、新兵器を使いこなしての行動力には目をみはらせるものがある。

**参画型そして手作り型へ**

身近な例ではあるが、総じて社会活動は、これまでの「受け身型」から「参画型」、さらには「手作り型」へと変化しつつある。行政に依存するだけでは直面する問題に対処できないとなれば、自分たちで、しかも金はできるだけ使わずに実質的な解決策を探り、実践する。女性パワーに若い力が加わって次の社会をけん引していくのである。こうした行動をしっ